

あ
い
の

【シンビジューム】

Vol.10

2012. 1月発行

新年の挨拶

明けましておめでとうございます。

昨年は『絆（きずな）』がキーワードとなりました。システムが優先され人間関係が希薄な現代において、人と人とを心で結ぶ『絆』の大切さが再確認された年でした。

藍野病院もまた、心や情の通った診療を肝に銘じて、『地域との絆』をより一層築きたいと思っております。本年もよろしくお願い申し上げます。

院長 杉野正一

Contents

- ・副院長就任のあいさつ
- ・当院の内科について
- ・就任医師挨拶
- ・「あいのまちの保健室」お知らせ
- ・リハビリテーション科だより
- ・ダイバーショナルセラピー
- ・シンメディカル糖尿病セミナー

副院長就任のあいさつ

平成23年11月1日より医療法人恒昭会藍野病院
副院長兼内科部長を拝命いたしました。

当院は、昨年9月より神経内科のエキスパートである
杉野正一先生を大阪医科大学より院長として迎え、
新しい時代へと変わりつつあります。

私は当院赴任以来、主に内科診療を行ってまいりましたが、
現在当院はこれまでにない様々な面で変革の時期にあり、
年々充実してきていると感じております。



副院長 佐伯 彰夫

当院は昭和40年に設立され、精神科診療特に他の精神
科病院では対応困難な身体合併症例への対応も行ってい
ました。現在は、内科、外科、整形外科、泌尿器科、婦人科、耳鼻咽喉科、眼科、
皮膚科、血液浄化センター、歯科といった多くの診療科の常勤医による診療が行われ
ております。なかでも内科は、循環器、神経、糖尿内分泌、呼吸器、消化器、肝臓、
リウマチ、膠原病、血液浄化センターを含む腎臓などの様々な分野の診療対応が可能
となっておりました。ことに神経内科、膠原病、糖尿病などは近隣病院と比較いた
しまでも充実した診療が行えていると自負しております。

当院は、他の一般病院では対応が困難になりがちな認知症や精神疾患を合併した患者
様にも可能な限り対応させていただいております。

今日本は世界に類を見ないほどの超高齢者時代をむかえ、高齢者に対する医療は、今
後ますます困難が予想されます。一例として、これまでは常識のようにになっていた胃
ろう造設による経管栄養もその是非が議論がされつつあります。

急性期の身体治療だけでなく、今後も“病める人々を医やすばかりでなく、慰めるた
めに”という当院の基本理念に準じ、心と体の総合的な診療に当たっていききたいと考
えております。

今後、地域医療に貢献すべく、さらに体制を整えてまいりたいと考えております。患
者様、ご家族の皆様にご信頼される藍野病院となれますように、各診療科医師ならび病
院スタッフともども協力していききたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願い
いたします。

当院の内科について



内科医長 金善江

昨年9月、大阪医科大学より杉野先生を院長として迎
え、当院の内科は常勤医15名を超える大世帯となりました。

当院内科の特徴は、何と申しまして「チームワークの
良さ」です。主治医制をとっていますが、難しい症例に
ついては、それぞれの専門を生かしながら互いにサポー
トし合い、全員で対応しております。

又、週1回の院長回診、症例検討を行い、入院患者様の
情報を全員が共有できるよう努めております。

月～土曜日の午前は主に初診再診外来を、午後は肝臓病、糖尿病、循環器、神経内科、禁煙外来、がん温熱免疫療法、リウマチ、膠原病、呼吸器、消化器などの専門外来を展開しております。

又、近年の外来患者様増加を受け、出来る限り内科外来を三診制とし、迅速な対応を心掛けております。

循環器内科は、佐伯副院長、阿部医師、私の3人で外来診療・心臓エコー・頸動脈エコー・下肢静脈エコー・ホルダー心電図を担当しております。

高齢化に伴う認知症患者様や心の病をかかえる患者様は、一般病院での受け入れが困難な場合が多々あり、十分な医療を受けられない可能性があります。

そのような患者様に対して当院では、老年科、精神科の専門医と一般科の医師が協力し診療に当たっております。

このような連携は他院においてはなかなか望めるものではないと自負しております。

木を見て森を見る事のない医療ではなく、全人的医療を目指し、今後も全員で一生懸命努めてまいる所存です。何卒宜しくお願い致します。

就任医師挨拶



福井マナミ 医師

平成23年8月より藍野病院に勤務させて頂いております
福井マナミと申します。

こちらでは、神経内科とリハビリテーション科を兼任させて頂いております。近年はパーキンソン病や種々の認知症患者数の増加やそれに関わる様々な問題が社会問題となっています。

そんな中、微力ではありますが両方の科の立場から地域社会に貢献していけるよう頑張っていきたいと思っております。

まだまだ至らない事も多いかと思っておりますが、
何卒宜しくお願い致します。

「あいのまちの保健室」お知らせ

～太田地区文化展への参加～

平成23年11月19日（土）と20日（日）の2日間、太田地区文化展の一部スペースをお借りして「あいのまちの保健室」を開催致しました。

「あいのまちの保健室」とは当院在籍の保健師を中心に、地域に開かれた病院づくりと、住民の方々の健康づくりを目的に健康相談や身体計測を行う活動です。



あいのまちの保健室スタッフ

太田地区文化展への参加は、早いもので8回目となります。

2日間で163名の方に来場して頂き、地域の皆様からも「毎年来ているんで

す」といった温かいお言葉を頂き、この活動が根付いてきているという充実感と、さらに地域の方々の健康保持・増進のお手伝いをしたいという思いでいっぱいになりました。今後も、住民の皆様が健康で生き生き過ごせるよう、このような活動を継続していきたいと考えております。

次回の「あいのまちの保健室 看護の日・健康まつり」は今春（平成24年度）5月中旬頃に院内で開催する予定です。より多くの皆様にお越しいただきますことを、スタッフ一同お待ちしております。

リハビリテーション科 だより

～理学療法～

当院の理学療法では、病気やケガによって生じた機能や動作の障害に対し、日常生活で行う上で必要な基本的な動作（起き上がって坐る、立って歩くなど）能力の回復と改善を目標に、それぞれの患者さんの状態に合わせて、個別に訓練を行っています。

精神障害や認知症を合併した患者さんが非常に多く、心理的配慮も欠かせません。また、整形外科領域では、腱板損傷などの肩関節疾患や肩関節・膝関節の人工関節置換術後の理学療法にも力を入れています。

広々とした理学療法室（約400m²）には、患者さんの寝返り等に対する不安を無くすため、プラットホームなど幅広のベッドを多く準備しています。移動空間も十分に確保し、歩行訓練なども行いやすくなっています。また、高齢の患者さんにも配慮し、使いやすい運動療法機器や温熱療法機器・超音波治療器などの物理療法機器を準備しています。



身体的な機能障害は、完全に回復しないことも多々ありますが、患者さんそのご家族と一緒に、どのような理学療法を実践するか、リハビリテーションチームの一員として日々考えています。

ダイバーショナルセラピー No9 ～ロボットセラピー②～

前回はロボットセラピーのご紹介をさせていただきましたが、今回は患者様の実際の様子をご紹介します。

＊84歳・女性

難聴があり、普段は他の患者様と積極的に関わる方ではなく、表情もかたい方でした。

他の患者様が“コロちゃん”とふれあっているのをちらちらとご覧になっておられたので、“コロちゃん”の頭をなでながらご本人の前に置いてみると…目を細めて見つめた後、頭や首の下をなでておられました。

それに反応して“コロちゃん”が鳴き声をあげ目をパチパチ瞬く様子を見て、一層笑顔に。

しばらくすると「これはアシカ?」「かわいいねえ」とスタッフに話しかけたり、お向かいに座っておられる他の患者様にも「かわいいよ」と向きを変えて見せてあげてたり、“コロちゃん”を介してスタッフや他の患者様との交流が生まれました。

もちろん、この方のように好反応を示す方ばかりではありませんが、アザラシロボットはコミュニケーションの一助にもなり得ると考えられます。

次回は、コロちゃんに対してどのような発言や動作が多くみられたのかをまとめてご報告いたします。



お問い合わせ

総合受付

TEL:072-627-7611 (代)

FAX:072-627-3627

入院のご相談は
「地域医療連携室」まで

編集委員一同

季刊誌「あいの」を最後までご覧いただき、ありがとうございます。皆様様に役立つ情報をお伝えできるように編集委員は日々病院中を駆け回り情報の収集に努めています。皆様の当院に対するご要望、ご意見をお聞きする機会がありません。編集員一同皆様の生のお声を聞きたいと思っております。例えば、「こんな特集をしてほしい」、「こんな病気について知りたい」、「病院のことが知りたい」等、どんなことでも結構ですので意見がありましたら、お聞かせ下さい。いつでもお気軽にお問い合わせください。お待ちしております。